

# 教育研究業績書

2018年11月21日

所属：食物栄養学科

資格：准教授

氏名：坂野 麻里子

研究分野	研究内容のキーワード
栄養教育	遺伝子多型 高血圧 慢性腎不全
学位	最終学歴
博士（農学）	東北大学大学院 農学研究科 応用生命科学専攻 博士課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
1. 栄養教育論（朝倉書店）	2017年刊行予定	
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
<b>4 その他</b>		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 資格、免許</b>		
1. 管理栄養士		
<b>2 特許等</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
<b>4 その他</b>		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
1. 栄養教育論	共	2017年刊行予定	朝倉書店	栄養教育における目標設定および評価について解説している。
2. 脳卒中診療：こんなときどうするQ&A.	共	2012年03月	中外医学社	坂野麻里子 宮田敏行 脳卒中は死因の第3位となっており、高齢者の寝たきりの原因においては1位となっている。本書では、これらの脳卒中診療に関わる多くの問題を題材としてとりあげており、そのうちのひとつとして、高ホモシステイン血症がどのように関わっているか、また今後どのような進展が期待されるかといったことを解説している。
3. ビタミン総合事典	共	2010年11月	朝倉書店	坂野麻里子, 宮田敏行, 長束一行 ビタミンKと臨床-循環器疾患との関連について解説している。
<b>2 学位論文</b>				
<b>3 学術論文</b>				
1. 酸価はフライ油の単純加水分解では無く酸化的劣化の指標の一つである	共	2017年12月	日本調理科学会誌	
2. 高ホモシステイン血症と心血管疾患について	単	2013年5月	栄養兵庫	坂野麻里子 心血管疾患に対する高ホモシステイン低下療法の効果を検証する過大規模臨床介入研究についての紹介、栄養素摂取の注意点や今後の展望をまとめた。
3. 大豆たん白質研究	共	2013年10月	大豆たん白質研究	小久保喜弘、古川曜子、坂野麻里子 先行研究と同様に大豆製品と頸動脈パラメーターの推移との関係を検討した。
4. 都市部一般住民を対象とした大豆摂取の動脈硬化進展予防効果に関する追跡研究	共	2012年10月	大豆たん白質研究	小久保喜弘、古川曜子、坂野麻里子 都市部一般住民を対象に、大豆製品別に、生活習慣病罹病リスクとの関係を検討した。
5. Association of intima-media thickening of carotid artery with genetic polymorphisms of the regulator of G-protein signal	共	2011年03月	Hypertens Res.	Kamide K, Kokubo Y, Yang J, Takiuchi S, Horio T, Matsumoto S, Banno M, Matayoshi T, Yasuda H, Miwa Y, Yoshihara F, Nakamura S, Nakahama H, Iwashima Y, Oguro R, Ohishi M, Rakugi H, Okamura

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
ing 2 gene in patients with hypertension and in the general population.				T, Miyata T, Kawano Y RGS2における遺伝子多型と内臓中膜複合体厚 (IMT) との関連を検討し、その遺伝子多型が動脈硬化発症に関わるかどうか解析した。
6. 学校における食の指導と児童の体格・体力との関連に関する研究	共	2009年4月	ヘルスサポートニュース	大竹まり子、赤間明子、鈴木育子、小林 淳子、細谷たき子、叶谷由佳、山岸あづみ、楠本健二、大森桂、坂野麻里子、鈴木 漢、大貫義人 山形県内の全小学校および中学校を対象に、給食の実施状況および食育の実施状況についてアンケート調査を行った。
7. Association of PLA2G7 polymorphisms with carotid atherosclerosis in hypertensive Japanese	共	2009年12月	Hypertens Res.	Miwa Y, Kamide K, Takiuchi S, Yoshii M, Horio T, Tanaka C, <u>Banno M</u> , Miyata T, Kawano Y 日本人高血圧患者における動脈硬化の発症と血小板活性化因子PLA2G7遺伝子のV279F、I198T、A379V遺伝子多型との関連を解析した。
8. 山形県内の小学校における食に関する指導の実態	共	2008年7月	日本家政学会誌	楠本健二、山岸あづみ、戸嶋ひろ野、坂野麻里子、大森桂、大貫義人、田村朝子 1年間に授業として実施された「食に関する指導」(食育)の実施回数を把握するために、山形県内の全公立小学校を対象にアンケート調査を行い、健康増進を目指した食育システム構築の資料とした。
9. Association of genetic polymorphisms of endothelin converting enzyme-gene with hypertension in a Japanese population and rare missense mutation in preproendothelin-1 in Japanese hypertensives	共	2007年6月	Hypertens Res.	<u>Banno M</u> , Hanada H, Kamide K, Kokubo Y, Kada A, Yang J, Tanaka C, Takiuchi S, Horio T, Matayoshi T, Yasuda H, Nagura J, Tomoike H, Kawano Y, Miyata T Endothelin converting enzyme-1遺伝子一塩基多型の大規模遺伝子タイピングを行い、第5イントロン内の一塩基多型 (rs212528) が高血圧症発症と相関を示す事を明らかにした。
10. ビタミンK含有食品とワーファリン (査読付)	共	2006年1月	日本血栓止血学会学会誌	坂野麻里子、宮田敏行 経口抗凝固剤であるワーファリンは、血栓症の再発予防の目的で、古くから使用されている。ワーファリンの効果は毎日摂取する食品中のビタミンK量により影響を受けるので、ワーファリン服用者は正しい食生活を送ることが重要である。本稿では、2000年に改定された日本食品標準成分表に基づき、食品中に含まれるビタミンK量を紹介し、栄養学的な見地からワーファリン療法のコントロールに必要な事柄を紹介した。
<b>その他</b>				
<b>1. 学会ゲストスピーカー</b>				
1. 百寿者の食事	単	2016年10月	日本臨床栄養学会総会	百寿者に共通する栄養摂取状況について解説した。
<b>2. 学会発表</b>				
1. 低酸素雰囲気はフライ油中の遊離脂肪酸生成を抑制する	共	2016年10月	日本臨床栄養学会	坂野麻里子、遠藤泰志、藤本健四郎 低酸素雰囲気下でのフライ油劣化、中でも酸価上昇抑制機構を解明するため、水噴霧加熱によるフライのモデル実験系を用いた検討を行った。
2. 都市部一般住民を対象とするコーヒー摂取量と動脈硬化との関係に関する疫学研究 吹田研究	共	2011年09月	日本栄養改善学会学術総会	小久保喜弘、古川曜子、坂野麻里子 コーヒーと頸動脈硬化との関係に関する研究はほとんど見られない。そこで、都市部一般住民を対象に、コーヒー摂取量と頸動脈内臓中膜複合体肥厚 (IMT) との関係を検討したところ、コーヒー杯数の多い群で血糖がわずかに低かったが、血圧、脂質値に差が見られなかった。一方、コーヒー杯数の多い男性で頸動脈硬化が多く見られた。頸動脈硬化がコーヒーそのものによる効果以外に、コーヒーを多く摂取する生活習慣要因もさらに検討していく必要がある。
3. Genetic polymorphisms of endothelin-related genes associated with risk of chronic kidney disease in Japanese hypertensives	共	2011年07月	ISTH	<u>Banno M</u> , Kamide K, Horio T, Miyata T, Kawano Y 高血圧に起因する慢性腎臓病 (CKD) の併発は、重篤な心血管イベント発症リスクを高めることから、CKDの予防対策が世界的に注目されている。そこで本研究では、高血圧患者におけるCKD発症に関連する遺伝子多型を探索した。
4. The Association between Plasma Fibrinogen and Coronary Heart Disease in a Japanese Urban Cohort: The Suita Study	共	2011年07月	ISTH	Kokubo Y, Miyata T, Sakata T, Okamoto A, Watanabe M, Ono Y, <u>Banno M</u> , Miyamoto Y 都市部一般住民を対象に血漿フィブリノーゲン濃度と冠動脈疾患との関連を検討した。
5. 哺乳類培養細胞のシスチン・グルタミン酸トランスポーターの発現における多価不飽和脂肪酸の影響	共	2009年9月	日本生化学会大会	小林翔、大林亮介、菅野裕司、土田雄介、柳大樹、坂野麻里子、五十嵐喜治、坂内四郎、佐藤英世 生体抗酸化系の一つとして機能していると考えられるシスチン・グルタミン酸トランスポーター (xCT) の発現制御と生理機能について検討を行った。
6. 緑色野菜のビタミンK含量に及ぼ	共	2008年9月	日本食品科学工学会	森田真菜、佐々木仁美、坂野麻里子

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
す調理の影響				
7. 山形県の小学校における食育実施状況について	共	2006年5月	日本家政学会学術総会	ワルファリンは我が国で承認されている唯一の経口抗凝固薬であるが、薬効に食品中のビタミンKが強く影響するため、本剤服用中はビタミンK摂取量を調節する必要がある。緑色野菜中には多量のビタミンKが含まれているが、ワルファリン服用中に緑色野菜の摂取を禁止することは不可能である。したがって、これらに含まれるビタミンK量を調理の影響も含めて試算し、摂取量を一定にする必要がある。そこで本研究では、ワルファリン服用者に適した栄養管理を確立するため、緑色野菜中のビタミンK含量に及ぼす調理の影響を解析した。
8. 山形県内の学校給食献立における地産地消の実態調査	共	2006年10月	日本栄養改善学会学術総会	田村朝子、楠本健二、山岸あづみ、戸嶋ひろ野、坂野麻里子、大森桂 好ましい生活習慣を確立し、健康保持・増進するためには、幼少期からの「食育」が重要であるといえる。本研究では「山形県内の児童・生徒の健康増進・体力強化」を目指し「食育」の向上を図ることを目的とした。今回はまず、山形県内全小学校での食育実施状況を調査した
9. Clusterin/apolipoprotein J (Apo J) 遺伝子の挿入/欠失 (I/D) 多型は日本人本態性高血圧患者の女性において血中脂質レベルおよび頸動脈硬化度に影響する	共	2003年10月	日本高血圧学会総会	山岸あづみ、楠本健二、戸嶋ひろ野、坂野麻里子、大森桂、田村朝子 山形県は、平成13年に全国に先駆けて地産地消の推進を盛り込んだ業基本条例を制定した。地産地消を食生活に取り入れることは、1) 地域の新鮮な食材を手に入れることができ、2) 輸送コストを抑えることができ、3) トレーサビリティが容易であり、食材の安全を確保できるメリットがある。また、地産地消を学校給食に取り入れることは、食品の安全性だけでなく、郷土料理の継承や地域農業への理解を深めることができ、食育の面でもメリットがある。そこで、山形県において学校給食に地産地消を取り入れた食育の普及を最終目標とし、本研究ではまず県内の小学校を対象に、学校給食における県産品の利用状況を明らかにするための実態調査を行った。
<b>3. 総説</b>				
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
<b>6. 研究費の取得状況</b>				
1. 基盤研究 (C) 新規		2015年		高齢者の健康維持に関わる高血圧関連遺伝子多型の解析
2. 若手研究 (B) 新規		2011年		高血圧性疾患の重症化に関わる遺伝要因の解明とその成果に基づく栄養指導法の構築
3. 若手研究 (B) 新規		2008年		高血圧症の背景となるET-1遺伝子多型の同定とその成果に基づく栄養管理法の確立
4. 若手研究 (B) 新規		2006年		食品中のビタミンK同族体の生理機能に関する研究
<b>学会及び社会における活動等</b>				
年月日	事項			
	日本栄養改善学会 日本家政学会			